

要警戒！

収量100kg/10a！？

イネカメムシの防除を行いましょう！

- 斑点米の発生による **品質低下**
- 不稔もみの発生による **減収**



を引き起こす、非常に危険な昆虫です。

- ①イネカメムシの成虫(川越市)
②イネカメムシによる斑点米(川越市)

【防除のポイント】

☑計画的に準備・防除を行いましょう！

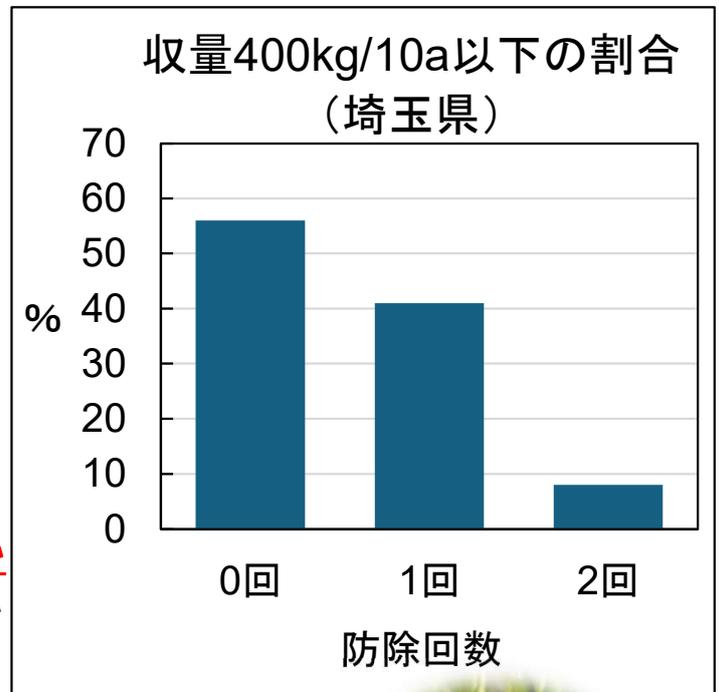
「イネ」の穂を強く好むため、出穂期になると突然飛来します。
事前に防除薬剤の準備をしておき、出穂期を迎えた際にすぐ散布できるようにしておきましょう。また、夏季の防除となるため、手作業での防除が難しい場合は、ドローンなどを用いた防除を検討してください。

☑2回防除をしましょう！

イネカメムシの防除適期は、出穂期～穂揃い期(不稔被害の防止)と穂揃い期の7～10日後(斑点米の防止)の**2回**です。

☑防除適期を意識しましょう！

イネカメムシは**移動が速く、若い穂を求めて移動する**ため、適期を逃すと手遅れになります。



☑収穫後には早めの耕うんを！

「ひこばえから出た穂」はイネカメムシが冬を越すためにたくわえる栄養の供給源となります。



③ひこばえを加害するイネカメムシ

【イネカメムシの特徴】

- 体長約13mmと**大型**。黄褐色で背中の中側に白色の線がある。
- **「イネ」の穂を強く好み**、出穂期になると突然飛来する。
- **移動力があり**、ほ場からほ場へ飛んで移動する。



④もみの基部を加害するイネカメムシ(川越市)

【県内の状況】

1. 発生状況

- 令和6年の県内予察灯(川越市・熊谷市・加須市・本庄市・春日部市・川島町)の合計誘殺頭数が前年の**7.5倍**に増加した。

	誘殺頭数(9月末時点)
令和6年	1,818
令和5年	242

- 発生のピークはおよそ**3回**(①6月下旬～7月上旬・②7月下旬～8月上旬・③8月下旬～9月)。

2. 不稔発生による収量減

穂が立つほどの不稔もみを発生させ、被害が大きくなると**収量が100kg/10aに達しないこともある(県東部)**。

⑤イネカメムシによって不稔になった穂



「イネカメムシ」は移動が速く、さらに行動範囲の広い昆虫です。増加および拡散の防止には地域の皆さんの連携が必要となります。

川越農林振興センターでは、今後も講習会やホームページを通して発生状況や防除法について情報提供をして参りますので、ご協力をお願いいたします。

画像提供: ③⑤埼玉県病害虫防除所

川越農林振興センター農業支援部(令和7年 1月発行)

電話: 049-242-1804

HP: <https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0902/index.html>